

You,
Unlimited



入場無料
要事前申込
定員350名

2018年度文化遺産学シンポジウム

高松塚古墳壁画保存の 過去・現在そして未来

開催日時 2018年12月22日(土) 13:30~16:30 (開場12:30)

会場 龍谷大学 大宮学舎 東翼101教室 (京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1)



主催: 龍谷大学文学部
写真提供: 文化庁・東京文化財研究所

高松塚古墳壁画保存の過去・現在そして未来

1971年に飛鳥の地で発見された「高松塚古墳壁画」は、今日の考古学・古代史ブームの先駆けとなり、それまで一部の専門家の分野であった考古学や古代史・絵画史を広く一般にも知らしめる学問の普及と進展に大きく寄与してきた。その一方で、この「高松塚古墳壁画」を将来に向けてどのようにまもり・伝えるのかという、極めて実務的な文化財保護や保存修復科学の分野では、それまでかつて経験しなかったような厳しい現状と向き合うことにもなった。

「高松塚古墳壁画」発見の立役者は、龍谷大学出身の考古学者である故 網干善教氏（関西大学名誉教授）である。そして、この古墳壁画の修理作業は近々完成予定となっている。本シンポジウムでは、このような「高松塚古墳壁画保存」のリアルに焦点をあてるとともに、この文化遺産保存の道のりと未来へのより良い取り組み方を共有したい。

プログラム

- 13:30 開会挨拶 龍谷大学学長 入澤 崇
- 13:35 基調講演1
▼
14:15 「高松塚古墳壁画の発見：
その瞬間と文化遺産としての意味」
関西大学大学院非常勤講師
奈良県立橿原考古学研究所共同研究員
森岡 秀人 氏
- 14:15 基調講演2
▼
14:55 「高松塚古墳壁画をまもり・伝える：
保存修理現場の今」
東京文化財研究所 保存科学研究センター 修復材料研究室長
早川 典子 氏
- 14:55 休憩
▼
15:10
- 15:10 基調講演3
▼
16:00 「高松塚古墳壁画のこれから：
修理と保存・活用の未来を考える」
奈良県地域振興部 文化資源活用課長
建石 徹 氏
- 16:00 総合討論
▼
16:30 [登壇者] 森岡 秀人 氏、早川 典子 氏、建石 徹 氏
[コーディネーター] 龍谷大学文学部歴史学科文化遺産学教授 北野 信彦

事例報告講演者



森岡 秀人
関西大学大学院非常勤講師
奈良県立橿原考古学研究所共同研究員



早川 典子
東京文化財研究所 保存科学研究センター
修復材料研究室長



建石 徹
奈良県地域振興部 文化資源活用課長

アクセス

龍谷大学 大宮学舎 東麓101教室
京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1



- ▶JR東海道本線・近鉄京都線
「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）
- ▶京阪本線
「七条」駅下車、西へ徒歩約20分
- ▶阪急京都本線
「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）

申込方法

次のQRコード読み取りもしくはURL直接入力の上、申し込みください。



<https://www.ryukoku.ac.jp/fm/let1808/>

※ご提供頂きました個人情報につきましては、本シンポジウムの運営のみに利用いたします。
※申込み確認のお返事は行っておりません。定数超過の場合は、事務局より連絡いたします。

お問い合わせ

龍谷大学文学部教務課

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL:075-343-3317 FAX:075-343-4302
E-mail: o-let@ad.ryukoku.ac.jp